

# 社会貢献活動

花王は、「豊かな共生世界の実現」をめざし、世界中のすべての生活者のKirei Lifestyleの実現に向けて、社会貢献活動を推進しています。多様な人々との共生、社会との共生、環境との共生という視点で、地域社会、NGO / NPOとの連携や、社員参加型の活動を通じて、今、支援を必要とする人への支援だけでなく、未来の共生世界の実現に向けた次世代育成にも注力しています。また、モノづくりの基盤を支える文化の発展のための芸術文化支援、(公財)花王芸術・科学財団による活動も行っています。

## 社会的課題

地球温暖化やごみ問題など、私たちの暮らしに深く関わる環境問題は、国際社会全体で取り組むべき喫緊の課題となっています。さらに、地球温暖化の影響から起こる洪水やサイクロン、熱波、水不足などは、衛生や健康への影響も大きく、企業の強みを活かした技術、啓発や寄付、連携などを通じた包括的な視点での取り組みを行うことがますます重要になってきています。また、社会変革の中で多様性へのニーズが高まる一方で、高齢化や、経済格差など、社会の隔たりは拡大する傾向にあります。

こうした社会課題に対し、行政、企業などだけでなく、すべての生活者がその課題を意識し、日々の生活の中で行動を変えていく必要があります。

## 方針

花王は「豊かな共生世界の実現」をめざし、世界中のすべての生活者のKirei Lifestyleの実現を、事業活動と社会貢献活動が一体となって推進しています。社会貢献活動では、花王が重視する社会課題を人々の生活に寄り添いながら解決すると共に、それらの活動を通じて社員の挑戦や高い志の実現をめざします。また、未来の共生世界の実現を担う次世代の育成にも注力しています。

## 戦略

### リスクと機会

#### リスク

ステークホルダーに対する適切な配慮の欠如やエンゲージメントの不在は、長期的にステークホルダーからの信頼を失い、花王の将来的なブランド価値の毀損も招くおそれがあります。

#### 機会

近年、生活者は、製品の性能や利便性だけでなく、その企業の掲げる理念やパーパスへの共感・支持で選択をしたい、という意識が高まっています。よりよい社会の実現に向けて、個人でできる選択と行動により、その意思を表明したい気持ちの表れといえます。

花王は、事業と社会貢献活動の両輪で共生世界の実現に取り組み、社会から必要とされる企業をめざします。さらに、このようなパーパスを掲げ、実行することで、企業への信頼を高め、優秀な人材の獲得機会につなげます。

### 戦略

活動の選択と集中、グローバル一体での推進体制強

化を通じ、事業戦略と連動した一貫性のある戦略的な活動と、生活者との双方向コミュニケーション施策を行うことで生活者からの信頼と共感を獲得し、「K27」達成への貢献をめざします。また、社員の社会課題解決への挑戦意欲を最大化することで、より革新的で価値の高いよきモノづくりや社会貢献活動を行います。その結果、長期的な企業価値・ブランド価値の向上をめざします。

### 2023年のキーテーマ

#### 環境問題への取り組み:「花王国際子ども環境絵画コンテスト」

コンテストの応募者数、社内外での展示活動を通じた接触者数の拡大により、生活者のサステナブルな暮らしへの行動変容を促します。

#### 未来の共生世界実現に向けた次世代育成:「社会起業塾」

社会課題を解決する若手社会起業家を対象とした「花王社会起業塾」を開催しています。全国の社員に向けウェブ会議での活動紹介や塾生と社員の対話の場をつくり、社員の理解を深め社会課題解決への参画をめざします。

#### 社員参加型社会貢献活動による社員活力最大化:「Kao ハートポケット倶楽部」

花王グループ社員による寄付組織で、毎月1口(50円)

# 社会貢献活動

から積み立てた基金をさまざまな活動支援に役立てています。また、社員がボランティアに参加する機会を提供することで、社員が社会課題と向き合い、高い志への刺激を受け、よきモノづくりに活かします。

## 社会的インパクト

「未来への5つの約束」に基づき、生活者の行動変容を促す啓発活動、技術支援、寄付、異業種連携・マルチセクター連携など、さまざまなかたちで支援を行い、広く社会に貢献していきます。

環境では、環境コミュニケーション・環境啓発により、一人ひとりの生活者が環境に配慮した暮らしを行うきっかけを与えることで、生活者の行動変容とよりサステナブルな社会の実現に貢献します。

衛生・清潔・健康においては、正しい衛生習慣の普及

と定着により、支援するコミュニティの衛生状況の改善や、生活の質の向上に貢献します。また、社会貢献活動への社員参加を促すことで、寄付やボランティアなどを通じて、社会課題に目を向け、考え、行動する力を身につけ、社会課題解決に取り組む風土を醸成します。

## 事業インパクト

責任ある消費行動が拡大する中、目標とする活動の確実な推進と社外への継続的なコミュニケーションにより、顧客からの信頼を獲得することが、結果として長期的なロイヤル顧客の獲得につながります。また、社会貢献活動への社員参加を促すことで、社員の創造性を活性化し、より革新的で価値の高いESG視点のよきモノづくりが実施され、社会に新たな価値を提供できると考えています。

## ガバナンス

### 体制

花王のESGビジョンであるKirei Lifestyleの実現のため、PR戦略部門が、関連部門や日本・グローバルの各社と連携して、取り組みを進めています。

国内外各社・各事業場には、年1回社会貢献活動調査を実施し活動報告を受けると共に、社会貢献活動の概要や費用などについて、年1回、経営会議で報告しています。

P25 Our ESG Vision and Strategy > ガバナンス

### 教育と浸透

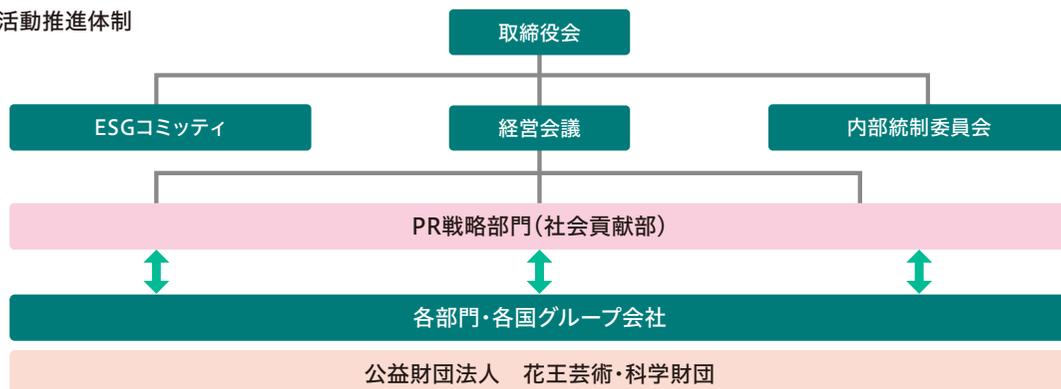
花王社員は、世界中の人々の暮らしに配慮し、事業活動と社会貢献活動を通じて、Kirei Lifestyle実現に貢献していくことが大切だと考えています。

社員が社会課題解決に取り組む人々と交流したり、社会貢献活動に参加する場を提供することで、多様な社会を学んで視野を広げ、創造力、連携力を高めて、よりよいモノづくりや社会貢献活動に活かすことを促進しています。

### ステークホルダーとの協働

世界中の人々がKirei Lifestyleを実現するため、ス

社会貢献活動推進体制



# 社会貢献活動

GRI 203-1

ステークホルダーとの対話・協働を通じ、複雑化する社会からの要請をより深く理解すると共に、一企業では果たせない、よりインパクトの大きい働きかけができると考えています。

清潔・衛生・健康のテーマでは、地域の状況を深く理解し高い専門性を有するユニセフなどの国連機関やNGO、社会起業家などと、環境のテーマでは生活者を巻き込み、行動変容が効果的に行われるよう、行政や自治体、学校、NGOなどと連携した取り組みを行っています。

また、社員が社会貢献活動へ参加することは、会社へのロイヤリティを高め、事業の発展と社会へのさらなる貢献に向けた活力となると考え、注力してエンゲージメントを行っています。

## リスク管理

ステークホルダーへの適切な配慮の欠如などによるレピュテーションリスクを避けるため、リスクに関わる各部門での確認、検討を踏まえ、情報発信に取り組んでいます。また、長期的には、次世代の育成活動に取り組み、信頼関係の醸成に努めています。

P40 Our ESG Vision and Strategy > リスク管理

## 指標と目標

### 中長期目標と2023年実績

#### 中長期目標

「未来への5つの約束」に基づき、事業や製品では直接アプローチできない人々、社会からの支援・手助けを必要とする人も含め、世界中の誰もがこころ豊かで快適な生活を実現できるよう人々の暮らしに寄り添い、貢献していきます。さらに、社員が社会貢献活動に参加し、社会との接点をつくり視野を広げることで、事業の発展と社会へのさらなる貢献に活かすことをめざします。

#### 2023年実績

##### 花王国際こども環境絵画コンテスト

- ・第14回コンテスト応募者数(15,916点/31カ国)
- ・入賞作品の展示活動(社内外65カ所、226,944人が観覧)

##### 花王ハートポケット倶楽部

- ・寄付件数37件/寄付金額11,121千円
- ・上記に加え、花王(株)からのマッチングギフト(同額寄付)5,121千円
- ・社員ボランティア活動参加者 のべ643人(おにぎりアクションは含まず)

#### 社員活力最大化

社会貢献プログラム参加後の自社への信頼感など、社員活力活性化につながる指標を可視化。

国内では、社会貢献活動への参加実態と意識やニーズを確認し、ターゲットとなる社員に効果的なアプローチを実施した結果、新たな社員の巻き込みができ、国内社員のべ10,984人(2022年7,832人)が社会貢献プログラムやボランティア活動に参加。

グローバルでは、のべ約14,000人の社員が、ボランティア活動やプログラム運営に参加。

#### 社会貢献活動費実績

花王の社会貢献活動を把握するために、国内外の関係会社、事業場、関連部門に活動調査を実施。2023年の社会貢献活動費は、花王全体で10億1,500万円(人的貢献1億1,800万円、物的支援2億8,100万円、寄付金2億9,000万円、プログラム費3億2,600万円 ※事業を通じた社会貢献活動を含む)となりました。

### 2023年実績に対する考察

2023年は、新型コロナウイルス感染症が収束し、数年ぶりにリアルでの活動を再開しました。

地球環境や未来を考えるきっかけになる「花王国際こども環境絵画コンテスト」では、世界31の国と地域からの応募となりました。また、展示活動においては、企画主旨に賛同した企業との取り組みを始め、より多

# 社会貢献活動

くの方に鑑賞していただきました。今後、よりグローバルな活動として進化を図ります。

また、社員活力最大化に向けて、社員と社会課題を結ぶ場の提供や、参加を促す仕掛け、情報発信に取り組むことで、より多くの社員が活動に参画しました。

2024年は、社会貢献活動に参加する社員や、協働する仲間をさらに増やし、「未来の共生世界を担う次世代育成支援」「支援・手助けを必要とする方への社会的支援」を中心に、グローバル一体となって活動を推進していきます。

## 主な取り組み

### 花王国際子ども環境絵画コンテスト

花王は、世界の子どもたちが身近な生活のエコと地球の環境・未来について真剣に考えて表現した作品とその思いが、世界中の人々の心を動かし、サステナブルなライフスタイルを実践するきっかけとなることを願って、2010年から「花王国際子ども環境絵画コンテスト」を実施しています。

#### 第14回コンテストの実施

2023年は、世界中の子どもたちから、15,916点(日本798点、アジア・太平洋14,644点、米州99点、欧州216点、中東151点、アフリカ8点)の応募がありました。花王のデザイナーによる予備審査を経て、10月に社内外審査員による最終審査が行われ、“いっしょにeco”



“いっしょにeco”地球大賞の作品  
タイトル「木の出家 - 森を守る仏教儀式」  
Kodchapan Malisorn さん(14歳)

地球大賞1点、“いっしょにeco”花王賞8点、優秀賞23点が決まりました。2023年12月17日には、世界各地から参加した受賞者と花王本社をつないで、オンライン形式で表彰式を実施しました。

#### NPO・行政等と協働した絵画展示活動

世界の子どもたちの絵とそこに込められた思いやメッセージをより多くの人に伝え行動変容につなげるために、入賞作品の展示活動を積極的に進めています。

花王グループカスタマーマーケティング株式会社を通じて、自治体環境関連施設やNPO、教育施設、流通系列での環境イベントなどへ絵画の無料貸出を行っています。また今年からは、百貨店との連携による展示(株式会社大丸松坂屋百貨店の7店舗への貸出)を実施しました。

2023年の貸出先は、65施設・団体、来場者数の合計は226,944人となりました。



7月/東京都八王子市クールセンター八王子での展示



花王国際子ども環境絵画コンテスト  
<https://www.kao.com/jp/sustainability/society/painting-contest/>

# 社会貢献活動

## サステナブル・ライフスタイル研究会

2021年に、花王と株式会社ワンプラネット・カフェが主導して設立した企業ネットワーク「サステナブル・ライフスタイル研究会」では、生活密着企業が生活者を巻き込み、行政や自治体、学校、NGOなどと連携して、暮らしの行動変容の推進に取り組んでいます。

2023年は、日本で初めて誕生した武蔵野大学の「サステナビリティ学科」の授業である「サステナビリティプロジェクト入門」で、1年生82名と共に暮らしの中のサステナビリティ課題を解決するプロジェクトに取り組みました。学生さんが学祭期間に校内に使用済みつめかえ用パックの回収箱を設置することを提案し、社員と共に区役所及び大学の担当部門に許可申請を行うなど、過去にない実践的なプロジェクトに発展しました。12月のオンラインの活動報告会には、花王社員約115名、メンバー企業社員計約137名が参加しました(事後録画視聴者含む)。



学生とのディスカッション

 サステナブル・ライフスタイル研究会  
<https://www.sustainablelifestyle.jp>

## 中国節水キャンペーン

 環境(花王中国)  
<https://www.kao.com/cn/sustainability/society/environment/>

2023“ 清洁美丽中国行”(2023年クリーン&ビューティフルチャイナツアー:花王中国)  
<https://web.kao.com/cn/jieshui/2023/>

## 花王・ベトナム衛生プログラム

### ユニセフ「学校衛生プロジェクト」を支援

 ベトナム学校衛生プロジェクト  
<https://www.kao.com/jp/sustainability/society/education/vietnam-schools/>

## 教材提供による学校教育支援

**P59** 清潔で美しくすこやかな習慣

## 多様化の影響

### ピンクリボンキャンペーンを通じ、がん教育を支援

2007年から、毎年10月～11月の2か月間、「花王グループピンクリボンキャンペーン」を実施しています。期間中は「あなたと、あなたの大切な人のために」をスローガンに、乳がんの早期発見啓発のため、国内外でさまざまな取り組みを展開しています。

日本での主な取り組みのひとつとして、認定NPO法人乳房健康研究会主催の「ピンクリボンアドバイザーによるがん教育プロジェクト」を支援しています。中学校・高校でのがん教育を実施するもので、日本人の2人に1人ががんにかかる中、生徒たちの健康意識の向上や、その保護者世代への影響も期待されています。

2023年は、認定NPO法人乳房健康研究会監修のもと、花王オリジナルのセルフチェックメソッドを制作。日頃の洗浄や保湿の中に取り入れやすく、習慣化しづらいセルフチェックに気軽に取り組めることを特徴としてキャンペーンのコミュニケーションを展開。メソッドを記載したお風呂で使える防水シートを準備し、社内外での啓発活動に活用しました。

化粧品ブランド「KANEBO」では対象商品の売上から一定額を、また生理用品ブランド「ロリエ」では公式SNSでのキャンペーンの結果に応じて、「がん教育プロジェクト」のほか、子宮頸がんの啓発を行う活動に寄付しま

# 社会貢献活動 GRI 203-1

した。また、化粧品ブランド「LISSAGE」では対象商品の売り上げから一定額を、認定NPO法人乳房健康研究会が行う超音波技師育成支援の取り組みに寄付しました。

そのほか、社員やその家族を対象としたピンクリボンセミナーや参加型の寄付プログラムを実施し、積極的な啓発活動を行いました。

さらに、海外を含めた一部化粧品店頭やオンラインでの啓発活動、ブランドと連携した寄付活動や異業種企業とのコラボレーション企画など、一人でも多くの方にメッセージを届けるために積極的に活動しています。

**P57** QOLの向上>花王グループピンクリボンキャンペーン2023

 [花王グループピンクリボンキャンペーン2023](https://www.kao.com/jp/pinkribbon/)  
<https://www.kao.com/jp/pinkribbon/>



中学校でのがん教育授業の様子

## 一般社団法人日本ボッチャ協会に協賛

花王は、パラスポーツ「ボッチャ」を通じ、DE&Iを推進し、共生世界の実現に社員と共に取り組んでいます。2019年よりゴールドパートナーとして日本ボッチャ協会に協賛し、社内外のボッチャ参加人数のべ1万人を目標に掲げています。

2023年は日本ボッチャ協会スタッフとメダリストを招いた体験会で、ボッチャの本質であるコミュニケーションの重要性やチームビルディングについて学びました。

また、初となる5事業場対抗戦を和歌山事業場にて実施。5事業場での予選参加119チーム(総勢815名)の中から勝ち上がった10チームが参加し、事業場を超えた交流を深めました。障がい者が働くプロダクション部門和佐グループ社員も含め、性別・年齢を超えた交流を通じて、共生世界と多様化について学び、考える場となりました。

2023年度のボッチャ体験者は、社内外でのべ1,778人、

1万人の目標に向け、2019年からの累計でのべ6,533人となりました。



初の5事業場対抗戦を和歌山事業場にて開催、障がいのある社員が働くプロダクション部門和佐グループも参加

## テーマ横断

### 花王社会起業塾

花王は、「豊かな共生世界の実現」を共にめざす人と事業を支援するため、2010年より、社会課題を解決する若手社会起業家を対象とした「花王社会起業塾」を開催しています。2023年度は、「家庭環境問題で悩む青少年少女を救う」「外国にルーツのある中高生の支援」「高齢者と若い世代の交流による孤立防止」に取り組む3組の若手起業家を塾生として採択しました(2023年度を含め、累計41組を採択)。

10月には花王本社に塾生を招き、全国の社員に向けウェブ会議で活動紹介と意見交換を行いました。その後、会場参加社員との対話の場では、塾生の活動をより

# 社会貢献活動 GRI 203-1

深く理解する中で、日々の活動の困りごとに対して社員が具体的なアイデアを出して課題解決に参画する姿が見られました。参加者からは、「刺激を受けた」「自身の業務の参考になった」という感想にとどまらず、「後日、起業家に会いに行き知人を紹介した」「今後も困った時には、いつでも相談に乗りたい」など、これまでにはない、先につながる社員と起業家のダイレクトなリレーション形成ができました。

年に3回行っている社員参加企画の参加者はのべ495人(前年674人)。うち、対面での交流会参加者は32人(前年0人)でした。このような社員を巻き込んだ活動が高く評価され、株式会社オルタナと一般社団法人サステナ経営協会が選定する「サステナブル★セレクション2023」において、花王社会起業塾が「二つ星」に認定され、雑誌やウェブで数万人に向けて発信されました。



社員と若手社会起業家(塾生)との対話

## 花王ハートポケット倶楽部

2004年に発足した花王グループ社員による社会的支援を目的とした寄付組織です。毎月1口(50円)から

積み立てた基金を、NPO・NGO等への寄付や、社員が参加するボランティア活動の支援、災害発生時の緊急支援などに役立てています。また、社員がボランティアに参加する機会を提供し、社会課題解決に取り組む風土の醸成を促進しています。

2023年度は、社会貢献活動に参加したことがない社員にも最初の一步を踏み出してもらうべく、「おにぎりアクション」の参加を広く呼びかけました。この企画は、おにぎり写真を1枚投稿するごとに、アジア・アフリカの子供達に5食分の給食が届く、誰もが参加しやすい社会貢献活動です。「社会の役に立ちたい」という社員の思いがかたちとなり、参加社員506名(前年の130%)、写真投稿1,362枚となり、6,810食の給食を届けることができました。

・会員数:3,436人

## 地域との共生

### 芸術文化活動支援・若手芸術家育成支援

花王では、優れた芸術文化の発展・継承と人々の豊かな生活文化の実現に寄与することを目的に芸術文化活動を支援してきました。日本の芸術文化活動の基盤を支える支援も一部継続しながら、地域社会を活性化させるプログラムや次世代育成のプログラムへの支援に軸足を置き活動を進化させています。

### 東京音楽コンクールの主催

2003年より、東京音楽コンクール(共催:東京文化会館・読売新聞社・東京都)を主催し、日本の音楽界の次世代を担う人材の発掘・育成活動を支援しています。各部門優勝者がオーケストラと共演する優勝者コンサートを開催するほか、入賞者には、単独公演の開催を含め、公演機会を提供し、東京文化会館が5年間バックアップを行うなど、育成に重点を置いた支援が特長のコンクールです。また、出場者の国籍・居住地を問わず海外にも門戸を広げ、国際色豊かに、質の高い音楽家を発掘する機会につなげています。

2023年度は、4月にピアノ、弦楽、木管の3部門の応募を受け付け、3部門を合わせた応募総数は421名でした。第一次予選、第二次予選を経て、8月25日から29日にかけて本選が行われ、各部門の入賞者が決定しました。



第21回東京音楽コンクールピアノ部門表彰式  
写真:堀田 力丸 写真提供:東京文化会館

# 社会貢献活動

## K-BALLET YOUTH

花王は2013年より、熊川哲也氏を総監督とするジュニア・カンパニー K-BALLET YOUTHの公演に特別協賛しています。これは、次世代の才能あるダンサーの発掘とプロフェッショナル・バレエカンパニーと遜色のない環境での実践の場を提供し、次世代の芸術家育成に取り組む K-BALLET YOUTHの趣旨に賛同することによるものです。2013年の第1回記念公演から、これまでに総勢約500名の若きダンサーが参加し、プロのダンサーとして活躍する参加者も数多く、多くの若者がK-BALLET YOUTHでの経験を糧に活躍しています。

2023年は2024年のリニューアルプランに向けた準備期間となりました。

## NPO 法人ミュージック・シェアリング指導プログラムへの協賛

花王は、ヴァイオリニストの五嶋みどり氏が1992年に設立した認定NPO法人ミュージック・シェアリングが実施する「ICEP」に協賛しています。「ICEP」は、五嶋氏と海外の若手演奏家がカルテットを結成し、アジアの開発途上国の学校・子ども病院・児童施設・高齢者施設などに本物の音楽を届け、同時に、若手音楽家の社会貢献活動の場を提供するプログラムで、花王の次世代育成の思いと重なり、2008年より支援しています。2023年はコロナ禍を経て、訪問プログラム、報告コンサート、楽器指導支援プログラム、合同コンサートなど生の音楽を届ける活動が再開しました。また、都市部だ

けではなくより広く日本各地へ音楽を届ける活動として「Play & Joy(プレイ・アンド・ジョイ!）」がスタートしました。2023年は和歌山県有田川町や沖縄県南城市をはじめ、山間地や離島などに暮らす子どもたちや地域に根付いた医療施設を定期的に訪問しました。

 **メセナ支援**  
<https://www.kao.com/jp/sustainability/society/mecenat/>

## 花王ファミリーコンサート

花王は2002年より、事業場立地地域で、地域の方々に質の高い音楽に触れる機会を提供し、音楽や芸術を楽しんでいただこうとコンサートを開催しています。このコンサートは、地域貢献と文化支援、社会支援を融合した花王ならではのプログラムで、企画から当日の会場整理、会場アナウンス、切符切り等の運営はすべて社員の手づくりで行っています。また、チケット収入は、全額、公演開催地域の音楽教育事業などに役立てていただくよう寄付しています。

2023年は4年ぶりに「花王ファミリーコンサート in 酒田」を開催しました。

当日は1,100人を超えるお客さまにご来場いただきました。公演では、飯森範親氏の指揮による山形交響楽団の皆さんと松田華音氏のピアノによる協奏曲などをお届けしました。公演の合間には飯森氏と松田氏による曲の紹介を交えたトークもあり、会場はとても和やかな雰囲気にもまれていました。また、講演後にはコンサー

トに招待した地元中学校の吹奏楽部の生徒と出演者との交流時間を設けました。チケットの収入は、酒田市の中学校音楽教育に役立ていただくよう寄付しました。

 「花王ファミリーコンサート in 酒田」を4年ぶりに開催  
<https://www.kao.com/jp/newsroom/news/topics/2023/society-20231031-001/>

## JSEC(高校生・高専生科学技術チャレンジ)

花王は、“よきモノづくり”の基盤は科学技術から生まれる革新的なイノベーションであると考え、未来の「豊かな共生世界の実現」に向け、若いサイエンティストの育成を応援しています。

その一環として、高校生を対象とした科学技術コンテスト「JSEC(高校生・高専生科学技術チャレンジ)」(主催：朝日新聞社、テレビ朝日)に特別協賛しています。花王の研究者も審査に参画し、『花王賞』など3件の賞を授与しています。

2023年は、全国174校の高等学校から343の研究作品の応募があり、過去最多となりました。

12月の最終審査では、高校生が自らの研究内容についてプレゼンテーションや質疑応答を行いました。いずれも純粋な探求心や、創意工夫がみられる、熱意があふれる発表でした。

 **理科教育支援**  
<https://www.kao.com/jp/sustainability/society/education/science/>

# 社会貢献活動 GRI 203-1



JSEC2023「最終審査会」花王賞受賞者

3月には受賞校の生徒と教員をお招きし、研究所の見学や社員との交流を図る「スタディツアー」を4年ぶりに対面で開催しました。1日目は花王ミュージアムと研究所の見学や、若手研究者との交流会を、2日目は受賞研究の発表会で社内の研究者と研究討議を行いました。高校生からは、「自身の研究視点の引き出しがさらに増えた」といった声があり、充実した交流の時間となりました。受賞研究発表会はオンラインでも配信し、全国の花王グループ社員約90名が参加しました。また、後日、発表会の録画を視聴した社員は70名を超えました。

## 災害支援

### 東日本大震災への取り組み



東日本大震災における花王の取り組み  
<https://www.kao.com/jp/sustainability/society/great-east-japan-earthquake/>

### NEXT TOHOKU ACTION

岩手日報、河北新報、福島民報が主催する「スマイルとうほくプロジェクト」は2022年3月より「NEXT TOHOKU ACTION(ネクスト東北アクション)」へ。花王グループカスタマーマーケティングが協賛を継続し、東北の未来をつくるお手伝いを続けています。

### その他の災害支援

#### 基盤整備活動支援金

花王より社会福祉法人 中央共同募金会「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」へ500万円の寄付を行いました。国内各地で起こる災害に対して、被災地の状況に合わせ、緊急時の支援活動から、復旧・復興、コミュニティの再構築に向けた活動まで有効にご活用いただいています。

#### トルコ・シリア地震被災地への支援

花王より日本赤十字社へ2,000万円の寄付を実施しました。加えて、国内外の花王グループ社員を対象に募金を呼びかけ、国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) へ寄付を実施しました。

# 社会貢献活動

## 公益財団法人 花王芸術・科学財団

花王芸術・科学財団は、1990年に、花王株式会社の創立100周年を記念した拠出を受け設立され、豊かな生活を営んでいく上で必要不可欠な芸術と科学技術への支援を併せ持つユニークな財団です。

芸術文化部門では、企画性に富み、芸術的、社会的に価値の高い美術展覧会や音楽公演等の芸術活動への助成、美術に関する優れた研究成果の発表の場としての出版への助成、音楽の学術的な研究への助成を行っており、2023年は88件、4,400万円の助成を行いました。

科学技術部門では奨学支援事業や女性研究者支援事業、科学技術研究への助成事業と顕彰事業を柱に活動しています。

奨学支援事業では、経済的支援を必要としながらも学びを選択する大学院修士課程の学生に対し給付型の「花王佑啓奨学金」で夢の実現を応援しています。2023年は13名に対し、780万円の奨学金の給付を行いました。

女性研究者支援事業では、日本の研究者総数に占める女性研究者の割合が低いことへの課題解決の一助として、2021年から任期付き雇用の女性研究者への助成支援「花王 Crescent award」を立ち上げています。ワーク・ライフ・バランスに配慮し、研究の継続を助けるための使途自由度の高い助成制度で、指定大学や研究機関から推薦された女性研究者14名に対し、1,400万円の助成を行いました。この事業により男女共同参画社会の形成を促進し、科学技術の向上を図り、よりよい社会の実現をめざしています。

科学技術研究への助成事業として、化学・物理学、医学・生物学の分野で独創的、先導的な研究を行う35歳以下の若い研究者に対し「花王科学奨励賞」の贈呈と研究助成を行っており、それぞれの分野で各5名、合計10名に対して2,000万円の助成を行いました。

顕彰事業では、化学・物理学、医学・生物学の基礎・基盤研究において独自の成果をあげた45歳以下の研究者を対象として

「花王科学賞」を各分野1名ずつ選び、正賞として賞状と副賞300万円を贈り、讃えています。

毎年6月には「花王科学賞」受賞者2名への贈呈式と記念講演会、併せて「花王科学奨励賞」の授与と前年度に助成を受けた研究者による研究成果発表会を合同で開催しています。

この贈呈式は偉業を讃えるだけではなく、化学・物理学分野と医学・生物学分野という普段は学会などで接点の無い異分野の研究者らが、それぞれの分野にわかりやすく発表を行い、新たな気付きや異分野ならではの化学反応が起きることを目的としています。過去にはこの会合で隣同士となった研究者が意気投合し、共同研究を行い共著で論文発表をした事例もあります。

花王芸術・科学財団は、これまでに累計約2700件、18億5,000万円を超える支援を行ってきました。これからも、芸術

文化活動と科学技術研究への支援を通じて、日本の芸術文化と科学技術の振興及び発展向上に寄与したいと考えています。



花王科学賞 授賞式

### 財団事業組織図

